

学校教育目標	教育理念『自立貢献』				
	○自分で解決する力を大切にします。(知・公・開) ○心豊かに生きる力を大切にします。(徳・体)				
学校概要	創立 36 周年	学校長	竹下 恭子	副校長	戸田 緑
	2 学期制	一般学級: 15 個別支援学級: 2			
児童生徒数: 570 人	主な関係校: 荏田西小学校 東市ヶ尾小学校 市ヶ尾小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
言語能力 持続可能な社会の創造に貢献する力 グローバル化の中で生きる力	市ヶ尾中学校 荏田西小学校 東市ヶ尾小学校	○多様性を認め合い、共に支え合うことができる子ども ○笑顔と挨拶があふれる子ども ----- ・ブロック教務主任会で、9年間で育てる子ども像に迫る行事を推進。 ・児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を実施。

中期取組目標	○チーム『市ヶ尾中』として全職員と関係者・関係機関とともにSDGsを意識し、持続可能な学校づくりを目指します。 ・生徒の学習意欲を高め、生徒が主体的に考え、社会とのつながりを大切に授業の実践を目指します。 ・ユネスコスクールとして、ESDの視点を重視する教育活動を展開し、「つながり」を尊重できる個人を育みます。 ・すべての教育活動にキャリア教育の視点を持って臨み、活動を充実させます。 ・学習ルーム(特別支援教室)を中心に、特別支援教育を全教職員で推進します。 ・小中一貫ブロックや家庭・地域、行政・NPO等と連携し、地域社会と強くつながり積極的に貢献できる力を育みます。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①ESDとキャリア教育の視点を重視し、実践的な態度につながる学びを推進するとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をさらに進める。 ②生徒による授業評価の分析やICT活用の推進など、校内研修を通して授業改善を図る。
担当 総務部(教務・ユネスコ・情報等)	
豊かな心	①学級・学年集団や全校の中で様々な個性や特性を理解し合う心を育て、自分の役割を意識し集団の中で貢献する力を育む。 ②平和学習、道徳の授業等を中心にして多様性や人権を尊重する心を育む。
担当 学習指導部	
健やかな体	①食育推進委員会を中心に食育を行うとともに、望ましい生活習慣の維持について家庭の協力を得る。 ②生徒の実態を分析し、運動能力の向上や健康増進についての教育を行う。 ③一校一実践運動の昼休み運動を体育科や生徒会を中心に推進する。
担当 保健環境指導部	
未来を開く志	①ユネスコスクールとして、平和学習やESDの視点を大切に、SDGsの目標達成に向けた昨年度までの取組・成果を基に特別活動や総合的な学習の時間等を中心に取り組みを継続させる。 ②行政・異校種・NPO法人・企業等と連携・協働し、持続可能な社会の担い手づくりに貢献する。
担当 総務部(ユネスコ・ESD)特活指導部	
特別支援教育	①特別な支援が必要な生徒について特別支援委員会が中心となり保護者と連携し、個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づいた指導を行う。 ②学習ルーム(特別支援教室)を組織的に運営し、一人ひとりの状況に合わせた支援や指導を行う。
担当 特別支援委員会	
生徒指導	①教職員は可能な限り生徒に寄り添い、生徒の些細な変化に気づくとともに気軽に相談活動ができる雰囲気作りを進める。 ②個々の生徒の状況を教職員全体で把握し、組織的な対応に努める。 ③インターネットやスマートフォンのマナーについて、定期的に指導をする。
担当 生徒指導部	
地域連携・学校運営協議会	①小中ブロックでの学校運営協議会で、学校経営方針や生徒の活動について周知するとともに、第三者からの視点を学校運営に活かしていく。 ②地域コーディネーターのマネジメントで各種ボランティア・学校行事等で地域の教育力を活用する。
担当 総務部等	
安全管理	①災害発生時や学校事故等の緊急事態発生時に、危機管理マニュアルに基づく適切で迅速な対応ができるよう日頃からのリスクマネジメント意識を高めるとともに研修を行う。 ②避難訓練の方法を工夫し、様々な形で実施する。
担当 保健環境指導部(防災)	
いじめへの対応	①毎月の生活アンケート等からいじめの実態把握と未然防止に努め、「いじめ防止対策委員会」を月一回以上開催する。生徒が自他ともに尊重し合い、生き生きと生活できる環境をつくる。 ②生徒個人の自己有用感を高めることができるように、昨年度に続きYPを取り入れた研修等を行う。
担当 生徒指導部	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチーム研修を月1回開催し、若手教職員の教育実践力を高めていく。 ②職員共有ファイルを積極的に活用するなどして、担当者同士のコミュニケーションをはかる。 ③働き方改革の視点から効率的な業務の見直しを図り時間外勤務を減らすとともに、持続可能な部活動について検討し適切な活動時間について考える。
担当 総務部	